

Facebook、ツイッター始めました

Facebook、ツイッターをやっています。どちらも様々な方と楽しい交流をするために活用しています。政治のことだけでなく、趣味、日々の暮らしのことなど、様々なことを気ままに投稿しています。心温まる交流ができれば嬉しいです。Facebookは、上限である5000人に達しそうであるため、申請をお受けできない場合もありますが、公開しているため、見ることはできます。



<https://www.facebook.com/ayako.shimizu.522>

ツイッターは、最近始めました。こちらは無制限のため、フォローしていただくと大変励みになります！よろしくお願いします。



<https://twitter.com/mmayako0424?s=09>

市政へのご意見などは、引き続き koreadoresudesu@docomo.ne.jp にお気軽にいただくと幸いです。

武蔵村山市制施行50周年記念式典に出席しました

令和2年11月3日、市制施行50周年記念式典に出席しました。感染症対策がしっかりとされた会場で、武蔵村山市職員の皆様方と、50周年を迎えた喜びを分かち合うことができ大変嬉しかったです。これからの50年の中で、皆様の幸せ、安心、安全を守るため、私もしっかり頑張ろう！と益々決意した一日でした。

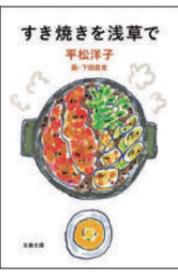


研修に行ってきた

令和2年11月18日、河川について学ぶ講演会に参加しました。武蔵村山市には、空堀川、残堀川が流れています。市民にとっても、生物にとっても、いこいの場になるよう、環境保全、河川の賑わい創出につなげていきます。

【個別相談】 ソーシャルディスタンスを保ちながら、対応しています。年間数百件の相談を市民の皆さんからいただきます。暮らしのお困り事、教育の事、道路等整備、新型コロナウイルスの影響による経営の相談、市に提案したいアイデアなど、様々なお話を市に届けています。お気軽にご連絡ください。

あやこの本棚



すき焼きを浅草で
平松洋子 画：下田昌克

「すき焼きを浅草で」

平松洋子 画：下田昌克
様々な食べ物の思い出が書かれています。
「そんな料理があるのね！」と、興味深く読んでしまう一冊。

【清水あやこ後援会に加入して下さる方募集中】 会費は無料です。ホームページの「後援会入会」からまたは、koreadoresudesu@docomo.ne.jp に、「後援会入会希望」として、住所、氏名、電話番号を送信してください。いただいた個人情報は後援会事務局で管理し、後援会に関する事以外の目的に使用されることはありません。応援よろしくお願いします。



MAIL

清水あやこプロフィール

・昭和54年4月24日神奈川県藤沢市生まれ。 ・自衛官の夫、高校生、中学生、小学生3人の子供がいます。 ・植物が大好きで、コウモリラン、多肉植物、クリスマスローズなどを育てています。 〒208-8501 東京都武蔵村山市本町 1-1-1 武蔵村山市役所 議会事務局清水彩子宛

清水あやこ
ホームページ



武蔵村山市議会
ネット配信ページ



武蔵村山市議会議員 清水あやこ 活動報告

あやこ REPORT

あやれば

安心できる優しいまち武蔵村山市に

昨年は、様々な事が変化した一年でした。
本年は、皆様にとって安心できる一年となりますように。

もしも身近な方が、新型コロナウイルス感染症に感染しても、ご本人も本当に辛いことなので「お大事に、早く元気になりますように。」と回復を祈り、誹謗中傷のない武蔵村山市でいられる事を願います。自分の命、大切な人の命を守るために、手洗い、消毒、換気、できるだけお家で過ごす事などを心がけ、引き続き、みんなでしっかり感染症対策をして参りましょう。武蔵村山市民、心をひとつにし、いつか無事にコロナ禍を乗り越え、みんなで笑い合えるその日を迎えましょう！

武蔵村山市の新型コロナウイルス感染症対策 ※令和3年1月1日現時点までの主な支援策

武蔵村山市は、どのように感染症対策をしてきたのか、感染症による影響に対応してきたのか、主なものをご紹介します。詳しくは、武蔵村山市のホームページ「令和2年度補正予算の概要 第2号～第7号」をご覧ください。

- ・基準日(令和2年4月27日)において、住民基本台帳に記載されたとある市民一人当たり10万円「特別定額給付金」を給付
- ・国の「特別定額給付金」の対象とならない令和2年4月28日から令和3年3月31日までに生まれた子ども一人につき10万円臨時支援給付金を支給
- ・児童手当(本則給付)を受給する世帯に対象児童一人当たり1万円を給付
- ・育児パッケージ(子ども商品券)の妊婦への配布
- ・学校給食6月から12月末まで全額補助
- ・セーフティネット保証等により、金融機関から融資を受けた法人または個人事業主に事業者応援給付金を支給(法人10万円、個人事業主5万円)
- ・市内の介護・障害福祉サービス事業者に対し、緊急支援事業給付金を支給(1事業者につき25万円(2か所以上でのサービス提供者は50万円))
- ・市内事業者の支援及び消費喚起のため、武蔵村山市プレミアム付商品券を発行
- ・避難所における感染症対策物資の購入
- ・ひとり親世帯、収入が減少した児童扶養手当受給世帯等1世帯5万円の臨時特別給付金を支給
- ・ひとり親世帯、1世帯当たり5万円、第2子以降1人につき3万円臨時特別給付金の再支給
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少等により、特定不妊治療を受けている夫婦が、治療を継続できる一助として、令和2年度中に治療を終了した方又は治療を開始した方に対する特定不妊治療に係る医療費の助成額の上限を3万円から6万円に引き上げ
- ・保護者負担軽減を図るため修学旅行キャンセル料を補助
- ・市内の認可保育所等に対し、衛生用品等の備蓄をするための補助金を交付
- ・国のGIGAスクール構想に基づき、児童・生徒一人1台のタブレット端末等を購入
- ・通信環境が整っていない家庭に対するモバイル端末等の貸与など

令和2年第4回定例会 一般質問で、私は「地域共生社会の実現について」質問しました。新型コロナウイルス感染症対策として、通常一人100分の一般質問の持ち時間が50分程度に短縮されましたが、質問したい内容は全て質問できました。是非「武蔵村山市議会」インターネット配信もご覧ください。一人でも多くの皆様と、考えを共有したいため、私が質問した主な内容をご紹介します。

一般質問【地域共生社会の実現について】

社会・経済活動の基盤でもある地域において、社会保障・産業などの領域を超えてつながり、資源の有効活用や活性化を実現するという循環を生み出し、これにより、人々の暮らしと地域社会の双方を支えていく体制づくりに取り組みたいため、地域共生社会の実現について伺う。

【市長答弁】

令和2年度に策定する第五次地域福祉計画の中で、誰ひとり取り残されることのない支援、及び生活の質が向上する仕組みづくりについて、生活困窮者等の相談支援事業の一体化をはじめとする、包括的な支援体制を検討しており、今後課題の洗い出し等を行いたいと考えている。

【清水あやこの再質問①】

お互いさまサロンから生まれた波及効果を伺う。

【市答弁】新型コロナウイルス感染症対策として、集まることができなかった時にも、サロン参加者間で主体的に家庭訪問や電話による見守り活動が行われたことから、地域の見守り体制の強化が図られたものと認識している。

【清水あやこ】お互いさまサロンが地域に「お互いさま」という気持ちを広げていることがわかった。助け合い活動や見守り活動をしていただいている皆様のご尽力に敬意を表する。

【清水あやこの再質問②】

商店街の空き店舗などを活用し、住民主体の活動による生活支援・介護予防・集いの場を作れないか。多機能であり、①介護予防教室。②一杯100円くらいでお茶を飲み、商店街で売っているものを食べながら話せる交流の場。③生活支援(家事、水やり、ペットの世話、フードバンク、譲ります、くださいコーナーによるリサイクルなど)。④イベントの企画と実施(ものづくり、クリスマス会など)。こうした集いの場づくりができないか。

【市答弁】生活支援コーディネーターは、店舗の空きスペースや個人宅の空き部屋などの提供を希望する方と活用したい市民をマッチングしている。東京都は、商店街空き店舗活用事業空き店舗活用モデル事業により補助を行っている。商店街の活性化につながる、そうした補助金の活用が考えられる。

【清水あやこ】社会福祉法人やNPO法人も、商店街との連名による申請で携わることができ、都の補助率3/4、事業者負担率1/4で補助限度額が3000万円。商店街が事業を立ち上げられるよう生活支援センターと連携しチーム作りができることを望む。若者にも携わってもらい、多世代交流、商店街への愛着が育まれることを望む。

【清水あやこの再質問③】

世帯数や複合的な問題から見ても、悩み事相談の窓口は、市役所だけではなく「緑が丘出張所」にも必要。複合的な問題(8050問題、ダブルケアなど)に対応できる「断らない相談窓口」を緑が丘出張所に設置できないか。

【市答弁】必要な支援が届いていない相談者に対するアウトリーチ等(民生委員、教育委員会などから情報を得る)を通じた継続的支援の実施、地域福祉コーディネーター(社会福祉協議会に2人兼務)機能の充実の検討を行う。現在「市民なやみごと相談係」で、断らない相談窓口を行うことにより、様々な支援につないでい

る。重層的支援体制を実施するための仕組みづくりを構築していく。

【清水あやこ】悩み事は「その日その時」対応することが大切。緑が丘地区は特に高齢化率も他の2倍。くらしの近くにある窓口の設置を望む。

【清水あやこの再質問④】

第五次地域福祉計画には、地域共生社会の実現に向け、どのような事が盛り込まれるのか。

【市答弁】地域福祉計画は現在策定中である。5回の策定懇談会、策定委員会を経て、12月中旬にパブリックコメントを行う。共通して取り組むべき事項では、複合的な問題を抱える人や、地域で孤立している人が必要なサービスを受け取ることのできる仕組みづくりの検討を行うことが盛り込まれる予定である。

【清水あやこ】複合的な問題を抱えている方の悩みが一日でも早く解決すること、必要なサービスを受けられるようになることは、本人や家族だけでなく、同じまちに住む私たちの願いでもある。誰一人取り残されない仕組みづくりの検討を望む。

【清水あやこの再質問⑤】

第五次地域福祉計画を策定するにあたり、障がいの部分の計画については、障がい者団体の話を聞いて策定しているか。

【市答弁】「特別支援学校卒業時の進路等に苦慮する場面が多い。日中活動の場が増えると助かる。」「福祉避難所について、関係機関の協議の場が必要である。」「特別支援学級での支援について、学校側の具体的な対応を計画に記載できないか。」などご意見を伺っている。

【清水あやこ】ご意見を伺っていただき感謝する。計画に載らない、団体、個人の課題についても、これからも寄り添い解決して欲しい。

【清水あやこの再質問⑥】

地域共生社会の実現について、大切なテーマとして災害避難がある。市は福祉の避難訓練をしたことがない。避難訓練をしてから福祉の防災計画を策定できないか。

【市答弁】防災訓練への参加を促している。「避難行動要支援者避難行動支援プラン」でも防災訓練等への参加を依頼することになっている。「自分たちのまちは自分たちで守る」共助意識の醸成、一人暮らしの高齢者、障がい者の見守りを積極的に行うよう検討する。各施設で避難訓練をしている。

【清水あやこ】各施設は、各施設が避難訓練をしている。市が何をするのかを知りたい。共助も大切だが、障がい者に対しては接し方がわからない人も多く共助は難しい。誰がどこに誰を送るのか確認する移送訓練、福祉避難所はどう開設するか、障がいがあり騒いでしまうお子さんがどこに居られるようにするのか、そういう福祉の避難訓練をして欲しい。

【市答弁】防災安全課、障害福祉課、高齢福祉課など関係機関と連携し今後進めていきたい。

【清水あやこの再質問⑦】

外国人市民どこの国が多いか上位3国と、外国人市民に対しての支援について伺う。

【市答弁】1位中国588人(33.8%)、2位フィリピン358人

(20.6%)、3位ベトナム345人(19.8%)である。多文化共生推進事業として、職員協力制度を実施している。今後も「外国語による窓口対応」「外国人市民への支援事業に関する協力」など、本制度を活用した外国人市民に対する行政サービスの充実を図っていく。

【清水あやこ】市のホームページでは、新宿の窓口が紹介されているが、それでは、外国人市民が、本市でどのようなことで困っているか、わからないのではと心配であった。英語、上位3か国の言語で対応する相談窓口を設置して欲しかったが、そのように対応しているとわかり安心した。

【清水あやこの再質問⑧】

国では、成年後見制度の利用促進に関する法律が施行され、それに伴い、法の趣旨及び第23条の規定を受け、地域福祉計画と成年後見制度利用促進基本計画を一体とした計画を策定していく必要があると思うが、本市は地域福祉計画に成年後見制度利用促進基本計画は入れるのか。

【市答弁】第五次地域福祉計画では「武蔵村山市成年後見制度利用促進基本計画」を内包している。市民意識調査では、成年後見制度の内容を知っている人は3割であった。広く市民に知っていただきたい。

【清水あやこの再質問⑨】

就労支援センターとらいの、令和元年度の武蔵村山市の企業への就職率、地域との取り組みを伺う。

【市答弁】就職された方は、29人中、武蔵村山市に就職された方は15人であり就職率は51.7%である。イオンモールむさし村山にて、職場体験などをしている。

【清水あやこ】半数以上が就職されていて素晴らしい。住み慣れたこのまちで活躍されていくことは、ご本人も親御さんも嬉しいことである。就労支援センターとらいの取り組みは、まさに現場として、地域共生社会を実現させている。感謝する。

【清水あやこの再質問⑩】

シニア起業、雇用創出について、どのように考えているか。日本政策金融公庫では、シニア起業家支援として、55歳以上を対象に特別優遇利率で最大7200万円という融資制度を用意し、厚生労働省は、中高年の起業家が60歳以上を2人か、4歳以上を3人雇った場合に、求人や採用の費用を最大200万円助成する事業を実施し、シニア起業と雇用創出の両面から捉えている。市のシニア起業、雇用創出についての考えを伺う。

【市答弁】

市内で創業を支援する取組は行っている。創業セミナー、創業塾など創業を目指す方のお話なども伺いながら考えていきたい。

【清水あやこの再質問⑪】

空き店舗活用の補助などバックアップを考えられないか。

【市答弁】

空き店舗を活用する事業を独自に行っている自治体は把握しているが、本市は改修費等を補助する制度がない。商店街の中の空き店舗の活用は、賑わいの集積も図られる。商店会や創業を目指す方のご意見を伺いながら考えていきたい。

【清水あやこ再質問】

是非これまでの経験を活かした事業を立ち上げていただきたい。

【清水あやこの再質問⑫】

学校外でも子供たちがプログラミングに慣れ親しむことができる

ように、地域住民で「地域ICTクラブ」が作れないか。

【市答弁】子供たちがICTスキルを身につけることは重要である。地域ICTクラブを立ち上げたい話があった際には、児童・生徒の募集など、教育委員会も、できる限り団体に支援をしたいと考えている。

【清水あやこ】

これから子供たちは一人1台タブレット端末を配布され、プログラミング教育も加速する。学びたい子供全てが学べる体制づくりが必要。土曜チャレンジ教室や地域未来塾のように、地域のICTに詳しい人に「地域ICTクラブ」を立ち上げていただくことを望む。

【清水あやこの再質問⑬】

ファミリーサポートについて、65歳以上の男性のサポート会員の人数は何人か。年齢制限はあるのか。

【市答弁】

現在サポート会員は、167名で、そのうち男性は6名。率では3.6%である。年齢制限はない。

【清水あやこ】ファミリーサポートは乳幼児の預りだけではなく、習い事への送迎、学童の預りもある。65歳以上の男性会員を増やすため、活動的な高齢者が集まる、お互い様サロンやシルバー人材センターなどに案内をしてはどうか。

【市答弁】サポート会員の増強は大切。今後お互いさまサロンの参加者、シルバー人材センターの会員にご協力いただけないか案内をしていきたい。

【清水あやこの再質問⑭】

児童養護施設には、様々な理由で親と暮らせない子供たちがいる。施設の子供たちが、家庭で過ごせるよう、里親制度、フレンドホームの普及が大切。武蔵村山市では現在一人も里親の登録がない。時間にゆとりがあり、子供が独立して空き部屋がある60代からの方々に託せないか。

里親制度と同様の社会的養護の制度の一つである「フレンドホーム」は、児童を預かる制度としては始めやすく、週末、祝祭日、夏休み、冬休みなど、学校の休業期間などに、施設や乳児院に入所している子どもたちに家庭生活を体験させる制度である。ファミリーサポートセンター同様、お互いさまサロンやシルバー人材センターなどに、里親やフレンドホームの案内をできないか。

【市答弁】施設の子供たちが、施設では体験できないことができない生活体験ができることは大切なことだと認識している。里親制度の紹介は、養育家庭体験発表会を通して実施している。里親制度と合わせて、フレンドホームも、お互いさまサロン、シルバー人材センターなどに、積極的に制度の案内をしていく。

地域共生社会の実現に向けては、誰一人取り残されることが大切である。とくに、孤立死がないよう、誰もが地域の誰かと繋がっている関係づくりを目指していただきたい。武蔵村山市に合った「地域共生社会の実現」をし、人と人が支え合い「ありがとう」という言葉と笑顔があふれる武蔵村山市になりますよう、これからも地域共生社会の実現について、武蔵村山市と体制づくりに取り組みたい。